

# NORCニュース

社団法人 日本外洋帆走協会

香港～マニラレースに参加して

月光Ⅱ艇長 清水 栄太郎

The Third China Sea Race

清水 栄太郎

<<GEKKO II>>

オーナー	久保田 正 敬
艇長	清水 栄太郎
ナビゲーター	土 肥 丈 志
セーリング マスター	並 木 武 士
ヘルムスマン	吉 田 秀
〃	村 瀬 哲 夫
コック	山 本 ゆみ子

昨年二月頃よりレース参加を計画，結局は上記のメンバー，計らずもオールワセタで構成，“同じカマのメシを食べた仲間，気の合つたチームとなりました。

加藤ボートで大改修をした艇は，3/17 横浜大棧橋で，英国客船，Chitral に積込み，先発隊の並木，村瀬，私の三人は神戸より乗船，途中，

ペンキを塗りながら、3/24早朝香港着、心配していたマスト立ても船の厚意に依り簡単に終り、出迎えてくれた、Mr. Ross (Secretary)の案内でクラブへ機走、昼頃には一段落、クラブで出迎えてくれた、Mr. & Mrs. Sydow (Chairman)の歓迎の昼食を受ける。いろいろこれからの予定なぞの説明を受けた後、居合せた出場艇のクルーを紹介される。この時感ぜられたのは日本からの参加が二艇もあつた事に非常に喜んで居り、又レースも終つてもないのに次のレースも是非と云われびつくり致しました。

香港での約10日間、殆んどの日を整備、クルージングに費し、夜にはクラブに集まるメンバーの方々と、前回のレースの事や、いろいろと助言を受け、又一度に多くの人を紹介されたので、帰つてから、彼の名前は何と云つたつけ？ Storm Doge1を一度に紹介された時にはクルーの一人に全員の名前を書いてもらう、我々の人気者、山本君はユミコ、ユミコと呼ばれ、陽気な村瀬は、日頃我々が呼んでいるテツチャンと呼び、夜にはクラブのバーに顔を出さないと彼はどうしたのだと心配される程でした。

東京の久保田オーナーからの電報でFujiの毎日の位置が知らされ、位置をチャートに記入、クラブへ報告、我々の予想として、30日には入港と想像したが、30日には入電なし、翌31日には待ちに待つた、電報、“本夕入港の見込、フジのアレンジをたのむ”これは今晚のパーティには間に合うと思ひ、せめて我々日本人が誰よりも早く出迎えんと、港外に待つが船影なし、日没となつてしまい、止むなくふじ、欠席のままパーティに出席、パーティが最高潮に達した頃、フジ、フジの声、我をも忘れ、サンパンに飛び乗つた時には、スプレンダーライトを輝々と照らし、まさに入港せんとするふじに乗り移り、艇長はじめ、皆さんの健闘をたたえ、後片付を後廻し、着のみ着のままパーティへ、万場の拍手を浴びた入場のシーンには、ジーンと来てしまいました。

ふじ、月光Ⅱは今度のレースのために、R.O.R.C.からレーティングをも  
らつたため、メジャリングを受ける必要がなかつた。

スタートの前夜、パーティの前にキャプテン会議で、一般的注意事項の説  
明がなされ、スタート後は海上衝突予防法のみ適用、あの狭い香港港内、小  
さな舟が走り廻る処でのスタート、日本だつたらたちまち保安庁から御目玉  
というところです。

4/2 スタート当日、朝から小雨、いやな天気、午前中に最後の点検、  
ナビゲーターは、天気図を写しに天文台へ、香港を離れたらすぐ天気になつ  
ているとの朗報を入手、又何時食べられるかも知れない陸の食事、クラブで  
済ませ、1400 ブイを離れる。雨は上つたが、風は少なく、1.5ノット  
程度、時折ブローが吹く、いやな風、強い潮に向かつてのスタート、もう少  
しの風が欲しかつた。スタート時にはその風もばつたり止まり、我々はライ  
ン中程より出ようとしたが、潮の方が強く、アウトサイドリミットが、みる  
みるうちに風上へ、二回、三回のやり直しでやつとスタートした時には

storm bogel ははるか遠くを、あの馬鹿でつかいゼノア・ミズンが我々の1  
本しかないマストより高いセールに風をはらませ、ヒールする事なく、静か  
に走つていつた姿はいかにも大型艇のなし得るものと痛感しました。日没前  
に潮の早い香港海峡を通過、20-00にはWAN-LAN、燈台を3時に一  
路南下、22-30頃までは、Fuji West-Wind IIの舷燈を後ろに見なが  
ら快的な滑り出し、11-30、ジャンクの大群の中に入つた時には風はE  
-13~4 knot となり、4 knot のスピード、20-00よりかねてより  
決定していたウォッチ、S-Watch 清水、吉田、山本、P-W、土肥、  
並木、村瀬との組合せ(翌日からはS-W、並木、吉田、P-W 土肥、村  
瀬とし、山本、私はフリー)

4, 4, 7, 5, 4, のローテーション

4/3 正午, 天測 D.F. で position を取る, 航海日誌は 2 時毎に記入

4/4 風 S/SE で落ちて来る。快晴

4/5~6 風 SE 10~6 knot に落ちる, 風が変る度にタックをする。

4/7 風全くなし, 香港で仕入れたオレンジを一度に二ヶ三ヶ食べてものが乾く, スタート翌日より水制限をしたので, 日中はつらくなる。止むなく, ブランデーを口のみ, 又格別の味

4/8 相変らず風なし, 日中の照り付けは厳しく, 日陰げを探すに苦勞する。二日続きのベタ, いささか皆, 頭に来ている, 最後の一缶のビール, 飲む, 飲まぬで大騒ぎ, 結局, 一缶を 6 等分, のどを通つた時の牛であつたら, 何度通すのだからと思つた。ゴールをしたら, 先ず冷たく冷えたビールとシャワー, あとは何もいうわぬと口々に云う。わずかの風で走る。

4/9 05-25 日の出と同時に待ちに待つた Land Fall, リンガン湾沖, 日が高くなつた頃又もやベタ陸も見えなくなり増々頭に来る。今朝は今夜半か早朝にゴールと計算したのだがこの分だと未だだいぶ時間がかかりそう。

4/10 愈々陸地が近くなり, 日が上つても見えている。正午には第二時大戦の激戦地, 多くの日本軍人の冥福を祈つて 1 分間の黙祈, 戦争をあまり知らない我々, 勝手に想像し, 結論を出している。知らぬ内サービック湾附近の爆撃練習標的の島に寄つてしまう。何の音か多分, 道路を作つているハツパの音と思つていたら, 頭上から飛行機が何度も何度も降りて来る度にドカン, はずれた爆弾で立つた水柱でやつと解り, あわてて逃げ出す, その時約 3 哩, 水路法をもう一度読み直し, 何人も近るべからず, 米国海軍基地とあり, あぶな

いところだつた。そんな事で気分がまぎれ、もうゴールの時間など気にせず、完全に風まかせ、日没にはもうとつづくにゴールしてたはずのコレヒドール島燈台を発見、2 湮位に近づくもマニテ湾からの出し潮の強いこと、又運悪く、日没よりのほりとなつてしまい、10 数回のタツクでやつと北極星、と燈台の見通し線を走り、ゴール、その時は11日 01-39-02、遂に200時間オーバーしてしまつた。ゴール時には食事で悩まされた名コック山本嬢に慰勞の意味で、歴史的なゴールの舵を取つてもらふ。彼女も満足した様子だつた。ゴール後プロペラのロックをはずし何度か押そうと思つたセルボタン、こわれる程強く押してマニラまでの27湮、ゴールを祝し、残つたブランデーを飲みまくる。07-30 マニラヨットクラブ着、はたして何艇入つているか掛けた。残念にも全部入つている。クラブの人達の出迎えを受け、早速待ちに待つてた、冷えたビールうまかつた。一段落後、シャワーへ、一通りの手続を終了、先に入つたふじが棄権したと聞いてがっかり、何んで又エンジンなど、とは思つたがその心境は解る気がする。09-00を過ぎる頃、皆さんがやつて来て、月光IIはピクニックに行つてたのか？何処に寄つて来たんだと、散々彼等の時間、コースを見て、やはり我々と同じ様に苦勞した事を知つて、気を静めたが、残念な事は、トロフィデイナーが終つてしまつてた事。しかしながら月光IIがゴールするまでは、未だ渡してないカップが三つ残つていたので一つ位と思つて居りましたが、結局一つも手に入らず、数日前に入つた storm bogel の連中、マニラ見物のガイドを買つて出てくれた。日中はとても暑くて、艇には泊る事が出来ないので、ホテルに移り、帰りの船が17日との事。17日迄ゆつくりと休む事にする。

17日に勸船の船に船積み、翌18日空路香港へ、再びR.H.K.Y. c.を訪ねたところ12日夕方台風接近の中出港した優勝艇、West Wind はもう自分のブイにもやいをとつて居た。Club Secretary Mrs. Aps に最後の御札をのべ、香港を後にした。最後になつてしまいましたが今回の遠征では会長はじめ、関係者皆様の御世話にあずかり誠にありがとうございました。又次回のレースには必ずN.O.R.C.からも参加致しますと約束して参りましたので是非会員の皆様に参加して頂き度くお願い申し上げます。

## 第7回理事会開催さる

昭和41年5月23日(日)名古屋において理事会が開催された。

出席者 関谷会長、秋田副会長、飯島、則武、渡辺、横山、外山、大儀見、津田、颯川、野本、松木、角田、丹羽、大橋、井上、土肥

## 議案

第1号 資産の変更登記について

第2号 無線設置陳情による現況について

第3号 神戸→横浜レースについて

第4号 その他

第2号についてはN.O.R.C.が中核体となり日本無線ヨット協会(仮称)を結成して許可申請をすることとなる。

第3号については、

これを実施し名称は神戸横浜レースとする。

7月25日 和歌山をスタート

帆走委員長 津田理事

副委員長 関東支部より未定

(大儀見理事が帰京後決めること)

出場資格 昨年通り

出艇料 1艇3,000

+1人につき500(会員)

finish=城ヶ島

前夜祭あり

その他については各支部提出議題について熱心な討議が行なわれた。

その他

関東支部よりは船籍票(船舶法関係法令)について法規委員(小田, 戸田, 兩人)の研究の結果にもとづいて適格艇は取得せねばならない旨報告。\*

※ 本理事会で種々検討されたが結局N.O.R.C.としては船籍票を取得することに決定した。船舶法による艇は概ね全長8m(26'-00")のものが該当していると思われる。

〔 神奈川県よりの照会には法規委員よりの通知にもとづいて27艇  
について回答しておいた。 〕

#### 東海支部主催懇親会開催さる

理事会開催を機会に東海支部主催にて同地区における協会事業活動に御支援の各関係者を招き, 東海支部会員の殆んど全員会合和気あいあいのうちに会は進められ, 同地区におけるN.O.R.C.の認識を深め, 極めて有意義であった。

同席上で渡辺氏撮影のホンコンマニラレースの実況映画あり感銘をあたえた。今回の行事に当り角田委員長をはじめ東海支部会員のお骨折りを感謝します。

常任委員会開催さる

第4回～4.1.3.23(火)18:30 出席者14名

議題

1. 初島レース(4/2-3)開催について
2. フリートキャプテンの決定報告
3. その他

第5回～4.1.4.15(金)18:30 出席者22名

議題

1. 初島レース終了に伴う諸報告
2. 黒潮南進レース(5/3-5)開催について
3. ヨット電波割当に関しての当局との打合せ結果報告
4. その他

第6回～4.1.5.17(火)18:30 出席者24名

議題

1. 黒潮南進レース終了について報告
2. 大島レース(5/28-29)開催について
3. 横浜～神戸レースの開催について
4. 無線電波割当申請に伴う関係団体との打合せ結果報告
5. 第7回理事会(於名古屋市内)開催について
6. その他

第7回～4.1.6.14(火)18:30 出席者23名

議題

1. 大島レース終了に伴う諸報告
2. 初島レース(第2回)開催について
3. 横浜～神戸レース開催に伴う準備態勢について

#### 4. その他

##### 1) レース委員会提案

- イ) 抗議手続仮決定について
- ロ) レースの改正について
- ハ) レース旗の改定について
- ニ) 八丈島レース準備委員会の発足について
- ホ) 1966'後期ポイントレース日程の変更について

##### 2) その他(雑)

- イ) 「登録票の交付」打合せ会の経過報告
- ロ) 3レース終了に伴う入賞艇の表彰について
- ハ) 会員伊橋嬢の個展(写真)開催のお知らせ

以上各回とも終始なごやかな雰囲気の中にも活発な意見が交されました。

第6回常任委員会開催のときは、御多忙中の関谷会長も出席下され、香港～マニラレース参加艇長からの報告があり会議時間の制約が恨まれた程です。

#### 各レースの経過報告

##### 1. 初島レース

1966年度第1回初島レース報告

初島レース委員会(はやとりグループ)

日 時 ; 1966年4月2日～3日

レース委員長 ; 名 宮 英 臣

レース委員 ; 草間信二, 星野利一, 百瀬久雄, 野村清, 勝呂 忠

# 補助委員 ; 伊藤正武, 竹内勇, 大山勝次, 宮部

低気圧が3月28日～29日, 4月1日と3日位おきに関東洋上を通つていたが, 2日は4月1日のものが三陸沖へ発達しながら通過した後天気も落

着いている様だ。気象協会では「関東南部では2日の最大風速は10m位、朝鮮半島南部にある高気圧が東へ移動するにつれて風は次第に弱まる。波浪は多少あり天気晴、明3日は風は多少落ち南、天気晴、夕刻より夜にかけて、低気圧が日本海を東に移動するので天気はくずれ、風は強まり波も多少高くなる。」との予報である。ポートサービスの福留さんに18:00現在の気象ファックスによる天気図を受信して貰った。予報の様に本レースの天候はおだやかな様だ。3日夕刻以降にかかる場合は注意を要するが、恐らくそれまでに全艇フィニッシュするであろう。

18:15艇長会議を開く、最初に安全委員長からの文書により参加艇全艇が現在も安全検査に合理している事を確認発表し、次いで武市計測委員よりの書類により本レースに適用する各艇のT O F及びクラス分けを発表した。本レースに参加申込みのコンテッサIIの石原慎太郎氏より『手違いにより1週間前の艇長会議に出られなかつたが皆さんの諒解が得られれば出たい』との申出があつたが、『レース規則中に明文はないが1週間前の艇長会議に出席しない場合は出艇資格を失うと云う慣習が出来ているのでこれを崩したくない』と云う趣旨の発言があり、結局石原慎太郎氏は出艇の申出を取り下げレースとしてでなく伴走することになつた。気象・海洋・水路については特別の注意点が見当たらないので入手した情報を掲示して各艇長に見てもらふ。最後に出走申告艇の艇長等の出席を点呼確認し18.50会議を終了した。

本部船(コミッテイボート)はやとりはすでに小網代湾のスタートラインを設置して居り、マークボートのフラッシュライトFl.ev0.7secが油壺湾口よりも視認出来る。

20:00スタート、ラヂオ時報と共にレース艇はSSW6-7msecの風をはらんでスタートラインに殺到し数分を出ずしてコースを初島に向け暗夜の海上へと去つて行く。

21:00 本部船を小網代泊地に繫留全員丸八旅館にておそい夕食をとり、本部船乗員は早期出航のため帰船し船中泊とする。

初島廻航迄の状況をフィニッシュ後に提出のあつた航跡図によると、風は21.00~22.30にかけ初島の手前10湊位から西にふれた様であり、初島Wの通過は01.55のロータスをトップに3時迄にトンガ、ジョビアルV K-7、モサIII、神州、シレナが廻り、次いで飛車角、シャークX、アオレレ、チルデ、ケロニアが4時迄に廻航、更にオリンパス、サガミII、ウシオ、フライングカーベット、アキツキ、マンボウが5時前後に廻航、かまくらがおくれて07.30に廻航している。

4月3日05.15本部船よりスピネーカ展開帆走中のセイルボート機走中との第1報、引続きスピンの模様確認の第2報                      ロータスと認められる。

06:44 No.355 ロータスはファーストホーム、41分おくれのNo.323 ケイセブンを2着にあとは5分~12分位おきにジョビアル、トンガ、モサIII、シレナとは入つた。(以上の6艇が得点計算の結果クラス順位の賞杯7個の中6個、総合順位のフラグ1・2・3位全部を獲得することとなつた。)

08:21 過ぎ神州・飛車角・シャークX・アオレレIIと10~28分位おきにフィニッシュ(この中でアオレレIIがクラスVのI位をとつた。)

09:45 過ぎチルデ、ケロニア、オリンパスII、フライングカーベット、サガミII、ウシオ、マンボウ、アキツキとフィニッシュ、とりわけサガミIIとウシオは1秒、ウシオの2秒後にマンボウと僅かな差で接戦をしながら一団となつてフィニッシュした。

13:20, 30' かまくらのフィニッシュを最後にレース艇全艇が無事フィニッシュしレースは終了した。

15:30 全艇の得点計算を終了し取材の報導関係者に成績を公表

かまぐらのフィニッシュ前後より海上は再び白波がおおいはじめ、夕刻にはブローが強く波浪も大きくなつていた。今の時季でレースをしている間を殆んど海上静穏にめぐまれたのは本当に幸であつた。終にレース関係者各位の御協力を感謝致します。

1966年第1回初島レース会計報告

レース委員長 名 菅 英 臣

収入の部

参加申込料	22艇	22,000
出艇料	19 "	54,000
計		76,000

支出の部

委員宿泊料(丸八旅館)	21,000
艇長会議借室料	2,100
レース委員打合せ会借室料	4,110
電話料(特設電話架設料共)	4,981
本部運営費(食費,交通費等)	14,520
交通艇チャーター料(ガソリン代共)	5,835
印刷代(帆走指示書等)	1,200
謝礼金(油壺ポートサービス)	2,000
計	55,746
差引残額	20,254

## 2 黒潮南進レース

### 66年黒潮南進レース報告書

帆走委員長 安岡 信一

66年度南進レースの出艇艇長会議は5月2日17.00より下田保安部内に於て下田警救課長、同係長出席の上開催致しました、席上課長より気象、海象、其の他のお話があり、特に天候状況が良くないと注意を受けました、各艇長と話し合いの上3日スタート前07.00よりもう一度艇長会議を開くこととして解散しました。

3日07.00より艇長会議を開催しましたが海上は約20メートルの強い風が吹き完全なシケ状態のためスタートを14.00まで延期することに致しました、我々委員は其の間に天気の詳細家である馬場さんをお願いして保安部の無線機を借用して天気図を作ってもらいました。其の他長津呂の気象所に電話をして三宅近海の状況を問い合せると11.00で三宅、平均35ノットと云うことで2・3割引で聞いても大分吹いている様子です。東急ホテルの屋上より神子元島を見ると風波のため神子元の燈台の上だけしか見えなかつた、14.00の艇長会議に於いて各艇長の意見を聞いて我々帆走委員は三宅廻りを中止と決定し明4日06.00スタートで神子元廻り城ヶ島のコースでレースを行うことになる、4日06.00各艇スタートWWS約12メートルの風で神子元に向う各艇ほとんど同時に神子元に着くが東進する潮が大潮と風の影響のため強く。シヨウトタックで廻ろうとするが、廻れず、“はやとり”が締めて岸よりに登るべく岸に向う(08.00)すぐ後に“コンテッサ”と“K7”がそれに続く、神子元廻りは“コンテッサ”“K7”“はやとり”(10.00)となり、岸に向わずに、頑張っていた“モサ”“アオレレ”“飛車角”は約1時間後にモサ、アオレレ、飛車角の順で全艇廻り城ヶ

島へ追風で(11.00s / 2m 13.00頃よりsに変わる14.00s 15m以上はやとりの報告) "コンテッサ" "K7" "はやとり" "アオレレ" "モサ" "飛車角の順でフィニッシュする。以上が簡単なレース報告です。

なお此のレースのために御協力下さいました三管本部, 各保安部, 伊豆急其の他各位に此の残面を借りまして御礼申し上げます。

### 1966年黒潮南進レース会計報告

レース委員長 安岡 信一

#### 収入の部

参加申込料	10艇	10,000
出艇料	8 "	34,500
計		44,500

#### 支出の部

委員宿泊料(下田大浦荘)	20,000
艇長会議借室料	2,150
電話料(特設電話架設料共)	6,080
本部運営費(食費, 交通費等)	17,640
印刷代(帆走指示書, 航跡図等)	2,340
謝礼品代	2,130
計	50,340
差引不足額	5,840

### 3 大島レース

1966年度大島レース報告

大島レース レース委員会

委員長 稲富 敬

(概況)

本年度の大島レースは5月28日(土)12:00葉山スタート、初島—大島—葉山フィニッシュのコースで行われました。

当初申込艇は24隻でしたが、KAY SEVEN, 潮風Ⅲ及びはやとりが出走を取りやめ、スタートしたのはクラスⅢ3隻、クラスⅣ15隻、及びクラスⅤ3隻の計21隻であります。

完走艇は13隻(内クラスⅢ2, クラスⅣ11, クラスⅤはなし)で、スタート後間もない13:50マストを折損したさがみⅡが先づリタイヤし、他の7隻のリタイヤ艇中アオレレⅡを除く6艇はすべてSWの風と伊豆・大島間の北東流に悩まされ、或いは大島回航に失敗し、或いは翌日の勤務のため29日中の帰港をいそぐためあきらめてリタイヤしました。

アオレレⅡはシレナに先立つ事1時間15分、29日 13:55に竜王崎の南に達し、大島を回航しましたが16:00翌日の勤務の事を考えてエンジンをかけリタイヤしました。

(レース運営関係)

今回の大島レースでは帆走指示書により、初島灯台を磁針方向90°に見た時刻、竜王崎灯台を同じく360°に見た時刻及び自艇の時計により計時したフィニッシュ・タイムを航跡図に記載する様定めましたが、全艇より航跡図の提出がありました。その結果は別紙成績表と併せて記録致しました。

猶りリタイヤ艇からのレース委員会への電話連絡は全リタイヤ艇よりすみや

かに行われ、保安部へも2時間毎の定時連絡に依り報告連絡しました。

又リタイヤ艇からの報告書も全リタイヤ艇より帆走指示書に規定した日まで、もれなくレース委員会に対し提出がありました。

各艇の御協力に厚く感謝致します。

ただフィニッシュタイムの自艇の時計による計時記録は未だなかなかシン  
ドイのか、或いは乾杯の用意で忙しいのか、記載のあつたのは、  
LOTUS, CYGNUS, SHARK X の3艇のみでした。

(さがみⅡの事故について)

さがみⅡ艇長よりレース委員会に提出された報告書によれば下記のとおり  
です。

- 「1. 日 時 5月28日 13:50
2. 場 所 江の島 SW 5M
3. 原 因 アップerschurラウド用タンバツクル折損に基くマスト折損  
(タンバツクルの「蛙又」の部分が鋳物で「ス」が入つてい  
た。中村船具製)
4. 海, 気象 SWW 8m/s, 波高1m, 薄雲, RG+M  
クローズホールド
5. その他 近くを帆走中の「稲竜」直ちに交転接近, SIRENA 風上1漕  
の地点より接近, 救助に入る体勢を示したので自力機走出来  
る旨を合図帆走の続行をお願いした。」

事故に気付いて早速救援にむかわれた「稲竜」及びレース艇 SIRENA に対  
しレース委員会より厚く御礼申し上げます。

(成績及びロータス対コンテサⅡ世のケースについて)

成績は別紙のとおりですが、スタート後間もない1240頃 LOTUS 及び  
CONTESSA Ⅱ が夫々スターボードタツク及びポートタツクで会合した

CASE がありました。

このケースについては夫々の艇より提出された航跡図にも記載がありましたので、レース委員会は各艇長に対しケースの見取図の提出を求めました処、その提出がありました。

LOTUS がフィニッシュ後、同艇長に対し抗議提出の意志の有無を尋ねた処、「NORCのレースに於いて抗議提出の前例もないので抗議は提出しないが、処置については、レース委員長に一任する。」という事でありました。

レース委員会では、NORC外洋レース規則に抗議及びその審問についての手続規定がないので本ケースの処置について、5月14日に開催された関東支部常任委員会に付しました処、レース規則第8条附則に基き、処置をレース委員会に一任されました。

以上の様な次第で、大島レース委員会は本ケースにつき以下の処置を取る事を決めました。

1. 事実関係は両艇から提出された航跡図及びケースの見取図並びに両艇のフィニッシュ後行つた仮のHearing から判断し、ロータス・スターボート・タック、コンテツサIIポートタックで会合し、ロータスが転舵して衝突をさせたものと思われます。

従つて、スタート後2時間以内は航法はIYRルールに従うべきでありますので同ルール第36条につき、コンテツサIIは違反しているものであり、失格とすべきケースであります。

2. しかし乍らレース委員会はいかなるヨットも正式の審問(Hearings)なしには罰せられべきでないと考えますので、RORCのSpecial Regulationに準じて、CONTSSA-IIに対し修正時間を5%増すペナルティを課すことに致しました。

海上保安部警備救難課の皆様及びレース海域の警備に当つて載いた「すみだ」乗組の皆様は厚く御礼申し上げます。

又クラブハウスを深夜まで使用さして載いた葉山ヨットクラブの皆さんにも厚く御礼申し上げます。

### 3 大島レース

1966年大島レース会計報告

レース委員長 稲 富 敬

#### 収入の部

参加申込料	24艇	24,000
出艇料		76,500
雑収入		81
計		100,581

#### 支出の部

委員宿泊料(葉山マリナー)	21,311
艇長会議借室料	2,850
委員打合せ会議費	3,400
電話料(一部未払あり)	2,340
”(前年度分支払)	7,573
本部運営費(食費,交通費)	14,240
印刷代(帆走指示書等)	1,610
葉山クラブハウス使用料(2日分)	4,000
謝礼金(葉山港管理事務所他2件)	10,610
雑費(消耗品代)	4,448
計	72,382
差引残額	28,199

#### 4 東海支部四日市レース

N O R C 東海支部四日市レース経過報告

レース運営委員長 横山武司(タートル)

東海支部本年最初のレース鬼崎，四日市港往復の四日市レースは4月10日午前6時，前夜雨をともなつて吹き荒れた低気圧の影響でまだ小雨の降っている中をスタートした。NW，風速6～8m/sの風を正面から受け，参加艇は本年度の緒戦を飾ろうと，意欲的なスタートを見せた。中でも去年中盤よりレースに参加し，レース出場毎に好成績を残している革激がトップに飛び出し，続いてネイビーブルーヌートル，ケリダ，うずしおと日頃レースに自信を持っている面々が負けずとばかり上りのコースに入つた。注目された初出場のチタⅡはマストトップの故障でメインセールがあがらず定刻より40分遅れてスタートした。行程約1/4のところで先頭を走っていた革激がfore stay 破損のため，棄権を余儀なくされ，続いて08：20ネイビーブルーが左舷lower stay を切断し，応急修理のため大きく後退していつた。残つたケリダ，タートルが争っている間にスタートでつまずいたチタⅡは大型艇の威力を充分に発揮し，折返し地点を先頭にて廻航その貫録を見せた以下，ケリダ，タートルと折返し12時49分無事最終艇がフィニッシュした。着順順位は1位チタⅡ，2位ケリダ，3位タートル，4位ネイビーブルー。革激，うずしおは棄権，尚時間修正は，計測未完了のため後日に残された。

今レースは今年最初のレースとあつて，慣れない事が多く，それにともない事故も続出したが，全艇無事に帰港し，事なきにいつた。

しかし今後春先のクルージング及びレースにはより確実な事前点検の必要

を痛感させられる。

## 各フリートの情報

### 1 江の島フリート

NORC江ノ島フリート活動開始

フリートキャプテン 島田 武夫

去る6月5日(日)江ノ島ヨットクラブ, クラブルームにて

NORC特別会員(オーナー)ミーティングを行い, 今後の活動, 目標等の打合せを行つた。当面の目標としては基礎的な環境作りに主力を置くことにした。

- (1) 江ノ島ヨットクラブと協力して, 附近海面の水路調査, 特に漁網の位置等の情報を集め, 江ノ島附近を帆走するヨットの便を計るための海図の整備を行う。
- (2) 赤十字飛行隊のパトロールも開始されるので, 救避活動に協力する。
- (3) 江ノ島ヨットハーバー施設に関し, 更に充実したものとするよう当局側に働きかける。即ち
  - (イ) 防波堤を改善し荒天時うねりが入らないような方法を検討してもらうこと。
  - (ロ) 食料品, 雑貨, 水, 補油等のサービスショップの設置を働きかけること。
  - (ハ) 夜間出入港艇のためのサービス員設置を働きかけること。

以 上

## 2 諸磯フリート

新設の意気に燃えて

フリートキャプテン 金原 良一

当フリートは出来たばかりで、又こじんまりしたいのですが、産れた以上は内容のあるものにしようと思われ、皆さんいろいろ考えております。現在の処、艇は七隻ですが毎月東京で会合を持っております。五月は、オリンピックヨットレースを16mmで写し、そのあといろいろの話が出てなかなか有意義な面白い会合になりました。又NORCのレースの時、メンバーだけのカップを作り三隻はカップをもらう事になつてます。ヨットレースで小さなフネはなかなかカップをもらう事が困難ですが、これなら時々家へ持つて帰れるので奥さん対策に具合がいいと好評をはくしてます。

諸磯にゲスト用ブイを設けるとかいろいろ実際の仕事はありますが、力相応に無理せずやつていきたいと思つてます。いろいろのメンバーの方がおりますので、今後面白い企画が飛び出す事と楽しみにしております。時期をみて諸磯で模擬店(艇)パーティーを開こうと思つてます。オデンプネ、ヤキトリブネ、オシルコブネ等が並んだら面白いと思います。その節は他のフリートの方もいらしていただきたいと思つてます。

### 3 葉山フリート

#### 葉山フリート短信

フリートキャプテン 戸田 雄之

#### Jovial Five II

本年度は1月、2月整備のため上架中で、ポイントレースにも出場出来ずやや出遅れたが、初島レース優勝を皮切りに、本年は出場する全レースに入賞することを期して張切つている。

#### Ballerina

最近は帆走することも少い様で淋しい。今シーズンはCruisingにraceに元気を活躍を期待したい。

#### Mambow

非常なfightを燃してOcean raceの技術の向上と艇の整備を心掛けているので、近く本格的な活躍が期待される。

#### 北斗

現在まだTCFなし。早く正式にOcean raceの仲間入りをされることを希い度い。

#### Blue Bird V

現在training中で、安全検査等もまだ受けていないが、今シーズンは葉山fleetにも正式に加入する予定である。

非会員は¥ 2,000

## ヨット専用無線電波について

田 山 英 世

レジャー用小型船の安全と能率的運航の為に専用無線電波が必要である事はかねてから関係者の間で取沙汰されて居りましたが、昨年5月の大島レース以後急に之の問題もクローズアップされ、海上保安庁や神奈川県地元関係者の意見もあつて日本外洋帆走協会より郵政省に電波割当に対する陳情書を提出した次第です。

御承知の様に現在電波の割当は極度に窮屈となつて居り、相当公益性のある目的でも簡単には割当が得られぬのが実情ですが、幸い郵政当局各位の御理解と、N O R Cを中心とした利用者側の熱意で本件も着々実現に向つて進捗して居ります。現在関係者の間で検討されて居る案のあらましを記すと次の通りです。

1. モーターボート、ヨット等レジャーを目的とする船なら誰でも利用出来る事
2. 適当な地域別、利用者グループを作り海岸局を設置する
3. 運用の資格は比較的簡単な講習で得られる程度のものとする
4. 電波は諸種の事情もあり、27メガサイクル

DSB (両側波帯) 1W 及び出来れば

SSB (片側波帯) 10W とする。(実用通達距離は概略

1W・30哩, 10W・50哩)

## 小型船舶の登録票交付について

神奈川県水産課主催・船舶登録についての会合

日 時 41年6月10日

場 所 県庁職員会館

議 題 5 Ton以上20 Ton未満の船舶登録について

出席者 水産課, N.O.R.C. (則武) 日本ヨット協会 (柳下)  
葉山 (鈴木) (五十嵐), 油壺 (福留), 小綱代 (白井),  
江の島 (藤村) その他

オブザーバー 関東海運局, 海上保安本部, 県側より登録についての根拠の  
関係法会の説明あり。

御協力をお願いするとのこと。

この会合のあと41年6月11日, 朝日新聞に, 登録, 免状等について  
通告したとあつたが, これは誤り伝えられたものである。

### おしらせのかづかづ

#### 1. 熱海ランデブーについて

夏の香りが近づいてきましたので, 昨夏「熱海ランデブー」に参加され  
た方々には思い出の一頁がよみがえつてきたことと存じます。

前号にてお知らせしましてから, 早速お申込み受けましたが田辺帆走委  
員長との打合せにて締切り日を変更しました。

繋留の施設も無償にて完備して下さる様になりましたことをお伝えしま  
す。(麻里記)

#### アタミランデブウ受付メ切期日延長のお知らせ

前回のNORCニュースで, アタミランデブウの受付メ切を5月15  
日と致しましたところ, 8月7日の行事に, 5月15日のメ切は, ベラ

ボウであると云うご意見を大分頂戴いたしました。將にその通りで、早速アタミ後樂園の方と交渉し、7月の中旬まで、受付を延期することになりました。その頃に、往復ハガキで、最終的な出欠をとらせていただきます。

それまで、ごゆつくりご検討いただき、多数の艇のご参加を得楽しく意義ある交歓の場としたいと思います。上記、ご連絡いたします。

N O R C 熱海 ランデブウ 帆走並 歓迎委員長

田 辺 英 蔵

## 2. Y.Y.C. (ヨコハマ・ヨット・クラブ)の利用について

今度Y.Y.C. (Yokohama Yacht Club)の好意有る申し出に依り、N.O.R.C.の会員は、Y.Y.C.のクラブ・ハウスを、Y.Y.C.のメンバー同様に利用しても宜しいとの事です。

Y.Y.C.は在留外国人が主なメンバーのクラブ、場所は、横浜ヨット港横に在ります。

尚施設・設備は、駐車場、プール、バー食堂、etc……御利用なさりたい方は、N.O.R.C.からメンバー、リストを提出して、Y.Y.C.よりカードを交付してもらいますから可成お早く氏名・会員船所属艇をN.O.R.C.本部迄に申し出て下さい。

(名和記)

## 3. 伊橋照美嬢「ヨット写真」展覧会開催中

みなさんとおなじみ深い伊橋さんが目下、日本橋高島屋8階で、ご手腕の発表展覧会を催によられます、寸暇をさいてご賞覧下さるようとのこと

です。

期間 ~ 41.6.14 ~ 26

伊橋さんのご挨拶

ヨットの写真を始めて丁度4年たちます、写真も1万枚をこえました。

今度は会場の関係でカラーも含めて30数点のささやかなものですが是非ご笑覧下さい。

陸で写真を撮るのとはちがつて、海ではより強靱な精神と頑健な身体、機敏な判断と忍耐が要求されます。

正直に云つて、始めるまで、こんな大変な仕事だとは思いませんでしたが、今まで皆様のかづかづのご協力のおかげで続けて来ました。

これからもひとりでも多くの海の豊さ、楽しさを知る仲間がふえるようにと、気まぐれな海を相手に写真を撮つてゆきたいと思つておりますので今後ともよろしくご指導ご協力下さいますようお願いいたします。

#### 4. 神戸～横浜レース開催について

昨夏始めて施行しました上記のレースは天候その他に左右されて参加艇も限られてしまいましたがレース途中の人命救助の壮挙により関係官庁よりの表彰もうけ関係者一同感銘深くしました。

本年は内海支部にて津田郁太郎理事が帆走委員長をつとめることになり、本年は内海支部に津田郁太郎理事が帆走委員長をつとめることとなり、下記による準備をすすめております。

コース……和歌浦港～城ヶ島 スタート……7月25日(月)09:00

前夜祭……7月24日(日)18:30 参加料¥1,000

申込締切日……7月11日(月)関東支部所属艇はNORC本部宛他は内海支部(津田レース委員長)宛

レース申込料……NORC登録艇¥3,000

レース参加料……艇長を除く乗組員1名につき会員、準会員は¥500、

5. 年会費納入についてのお願い

前号ニュース紙上にてお願いしましたので本年度の年会費の払込みも好調ではありますがまだ会員の半数に達しておりませんので御面倒でも早速納入して下さい。

銀行払込先

住友銀行虎の門支店普通預金口座

日本勧業銀行京橋支店       "

会員の異動

特別会員より普通会員へ

4004	関根久氏	(シャークVII)
2333	今井金次	(妙義)
5590	MR. KARL WAYSS	(SEA-WITCH)

普通会員より特別会員へ

5555	MR. J. T. UBBINK	(SEA-WITCH)
5537	下平紘一	(シャークVII)

準会員より普通会員へ

4500	今北文夫	(TILDE)
5571	大森孝成	(ダモイ)

新登録艇紹介（詳細は後報します）

セール№	艇名	オーナー	フリート
141	SANDPIPER	B. R. NEMCOFF	油壺
178	EIGHTY-EIGHT II	伊藤利男	諸磯
306	アニトラ II	久野桂	江の島
314	とらふぐ	大矢武信	諸磯
385	BLUEBIRD V	外山賢三	葉山
386	NOAH - 12	坂腕実	諸磯
387	SHMOO-SAN	DR. D. MOWRY	葉山
388	稲竜	小沢信三郎	油壺

新入会員紹介 (41.6.20.現在)

会員番号	氏名	住所	勤務先	フリート	所属艇
6637	(準) 渡辺 康夫	神奈川県葉山町堀の内588 (0468)75-0709	湘南高校学生		小網代 どんがめ VII
6638	※ 小沢 信三郎	東京都大田区南馬込4-12-5 (771)8098	アルミニウム商事KK (572)2147-9	油壺	稲 竜
6639	石川 和夫	〃 渋谷区猿楽町9 (463)4812	日本大学学生	諸磯	MUSE
6640	馬場 邦彦	横浜市磯子区汐見台3504-434号 (045)75-8565	日本水産KK捕鯨部気象課 (279)3331	小網代	竜王丸
6641	※ 久野 桂	東京都港区麻布霞町7 バードガーデンアパート31号 (281)4371	経済団体連合会B I A C事務室 (281)4371	江の島	アニトラ II
6642	※ 坂 脇 実	神奈川県横須賀市浦郷町2-51 (0468)6-5018	川崎化成KK塩浜製造部工務課試験 (044)3-0121	諸磯	NOAH-12
6643	伊橋 照美	東京都豊島区要町1-27 (957)4282			
6644	早藤 仁一	〃 目黒区上目黒6-1278 (712)7260	森永乳業KK管理部経理課 (451)0111	小網代	飛車角
6645	J. WILLEMS	神奈川県横須賀市, 横須賀米海軍基地内	横須賀米軍基地	横須賀	SEA WITCH
6646	R. DAHLLOFF	〃 〃	〃	〃	〃
6647	稲富 すみ子	東京都新宿区大京町12-6 安藤方 (351)7845		油壺	あきつき
6648	(準) 河村 祥夫	〃 杉並区高円寺南3-25-6 (312)4649	学 生	小網代	TILDE
6649	鈴木 勝男	〃 江東区大島7-40-7 尾崎方	尾崎ギヤー工業KK (681)5318	〃	ケロニア
6650	RODGER W. HARDIN	横浜市中区本牧大黒町124	東京ヨットKK (045)20-7188	横 浜	
6651	小島 和雄	東京都大田区山王3丁目37-3-101号 (772)3998	〃	〃	〃
6652	浅川 進	神奈川県高座郡座間町相模台814	田谷精機KK技術部設計 座間51-1711	江の島	うしお
6653	大沢 浩吉	東京都目黒区上目黒8-521	米国フロリダ 在勤	油壺	DAMO I
6654	青山 恒昌	〃 豊島区池袋東3-31 青山正友方 (982)1400	ジーティーサン (541)3031	小網代	一 乗
6655	松本 謙一	埼玉県大宮市日進町1-309 (0486)42-1715	東京プリンス整備KK直需課 (474)3411	〃	〃
6656	※ BARRY R. NEMCOFF	東京都港区麻布今井町41, グルーハウス6445 (583)6951	アメリカ大使館報道部 (583)7141 内線428	油壺	SANDPIPER
6657	吉元 恵子	〃 〃 〃		〃	〃

会員番号	氏名	住所	勤務先	フリート	所属艇
6658	木下豪彦	東京都武蔵野市中町1-16 三徳ビル402号	丸善石油KKサービスステーション課(201)7411	江の島	潮風III
6659	(準)村上義雄	千葉県千葉市天戸町729 (0472)59-2555	上智大学学生	諸磁	MUSE
6660	松永昌平	神奈川県藤沢市鶴沼松ヶ岡4-6-4	"	"	"
6661	中山昭彦	横浜市中区北方町1-74 (045)20-4844	中山マリンフアシリター (045)20-4844	横浜	
6662	野口厚二	神奈川県横須賀市小矢都町180-25	山一証券KK横浜駅西口店 (045)44-1324	油壺	CONTESSA II
6663	桑原一雄	東京都日野市落川160-17		小網代	飛車角
6664	有吉健士	" 品川区北品川3-215 第一冷荘社寮(491)6682	第一冷荘KK総務部	油壺	KAYSEVEN
6665	服部文男	" 港区赤坂一ツ木町80 (583)3662	明治屋	葉山	BLUEBIRD
6666	山本鴻之介	" 世田谷区世田谷1-917	千代田火災海上保険KK	"	"
6667	大井章	" 町田市木曾1185-2(ロ)3号室	"	"	"
6668	広瀬敦彦	" 太田区田口調布3-28-1	日東紡績KK	"	"
6669	門野進一	" 港区赤坂新坂町51 (408)2073	横河橋梁製作所	"	"
6670	有馬敬昭	" 渋谷区神宮前6-25-19 (401)2054	成蹊大学学生	"	"
6671	須賀光一郎	" 港区麻布我善坊町34 (583)3119	慶応義塾大学学生	横浜	おちやん
6672	大村英隆	横浜市戸塚区平戸町1492 イスゞ自動車戸塚南寮B-82	イスゞ自動車KK工具課	小網代	一乗
6673	大沢昭義	東京都足立区本木町1-1098 (887)0266	東京医科歯科大学歯学部麻酔学教室(812)6111	油壺	JUNE BRIDE
6674	麻生雅幸	" 武蔵野市緑町2丁目3番地21-401号 (0422)51-9592	住友海上火災KK貨物部再保険課(272)3251 内線428	葉山	MAMBO
6675	杉野禾吉	" 品川区上大崎3-300 (473)4556	住友商事KK建設建材課(580)0111	油壺	AOLELE II
6676	末常泰男	" 目黒区緑ヶ丘2丁目2-18 (717)1203	" " 社長室調査課(211)0111	"	"
6677	高山秀文	横浜市磯子区馬場町8-15 (045)75-7121	千葉大学意匠科	"	くろしお
6678	木口博之	東京都墨田区横川橋2-10 (622)0374	" 医学部	"	"
6679	木村正文	" 目黒区下目黒3-656 住友商事下目黒寮 (712)7456	住友商事KK鋼材貿易第3課(211)0111	"	AOLELE II
6680	丸隆	千葉県松戸市下矢切大堀304-1 清水すず様内	千葉大学園芸学部学生	"	くろしお

会員番号	氏名	住所	勤務先	フリート	所属艇
6681	高橋 功	東京都渋谷区東1丁目34-15 オリンパス光学瑞光寮 <sup>(401)</sup> <sub>9116</sub>	オリンパス工業KK輸出部第2課(294)4411	諸磯	OLYMPUS II
6682	※伊藤 利男	神奈川県鎌倉市大町1094 (0467)2-1968	日本製靴KK横浜営業所(045)64-3789	"	EIGHTY-EIGHT II
6683	一色 忠之	" 逗子市久木312 (0468)71-2345	成蹊大学学生	"	"
6684	(準)伊藤 修二	" 川崎市小田4丁目28-11	丸産自動車KK(044)4-5141	小網代	どんがめ VII
6685	河上 憲司	" 横浜市神奈川区六角橋3-14-3 (045)49-4722	和光産業KK造船部(045)68-1518	油壺	応竜
6686	(準)西岡 一正	" " 港北区大曾根町900 池上方	慶応義塾大学学生	横浜	のぶちゃん
6687	石川 光男	東京都渋谷区初台 戸田方 (370)5967	早稲田大学学生	油壺	稲龍
6688	栗原 宜明	神奈川県逗子市山の根3-15-17 (0468)71-5527	" "	"	"
6689	金刺 高雄	東京都目黒区下目黒1-52 土屋方(491)8274	" "	"	"
6690	※大矢 武信	" 世田谷区玉川奥沢町2-211 (718)1230	毎日新聞社印刷部輸転課(212)0321内線631	諸磯	とらふぐ
6691	八木 達夫	神奈川県逗子市桜山3-5-26	" " " "	"	"
6692	橋本 順	" 横浜市鶴見区鶴見町269(045)52-7231	" " " "	"	"
6698	※DR. D. MOWRY	" " 中区山手町20(045)68-5516	モンサントジャパンレミテッド(212)8781	葉山	SHMOO-SAN
6699	池田 信一	東京都品川区荏原3-4-7 大和荘	日本交通公社外人旅行部欧亜課(211)3211	小網代	どんがめ VII
6700	(準)今岡 又彦	神奈川県鎌倉市津158	青山学院大学学生	"	MAUPITI II
6701	(準)日比谷 陽一郎	" 鎌倉市扇ヶ谷83	慶応義塾大学学生	江の島	潮風 III
6702	(#)五十嵐 研自	" 藤沢市辻堂6442 (0466)36-6423		油壺	CONTESSA II
6703	(#)川手 喜彦	" 横浜市中区本郷町2-41		江の島	潮風 III

### 入賞艇の表彰について

本年度のレースも計画どおり取り進んでおり、ご承知のとおり、すでに、初島、黒潮南進、大島と第2回目の初島の各レースが盛会にそして無事に済みましたので、合同表彰式を下記により開催することになりましたから出走艇以外の会員諸士も是非ご参集下さい。

日 時 41.7.5 (火) 18.30

ところ 日本船舶クラブ会議室

### 外来「ヨツト」のお知らせ

香港～マニラレースに「ふじ」「月光Ⅱ」との競艇「ストーンフォゲル号」(74ft)は目下門司港に姿を現しております。

第7回鳥羽パールレースに参加されるとのこと、その偉容に接する日も近いことと楽しみにしております。お知らせまで……

レース成績表

1966第1回初島レース成績表

初島レース委員長

SAIL No	艇名	TCF	着順	到着時刻	所要時間	修正時間	総順	クラス順
355	LOTUS	.794	1	06-44-01	10.44.01	8.31.20	4	③ 1
323	KAY-7	.775	2	07-25-28	11.25.28	8.51.14	6	③ 2
184	JOVIAL-5H	.720	3	07-30-57	11.30.57	8.17.29	1	④ 1
383	TONGA	.750	4	07-36-54	11.36.54	8.42.40	5	④ 4
366	MOSSA III	.710	5	07-48-18	11.48.18	8.22.53	2	④ 2
179	SIRENA	.712	6	07-53-44	11.53.44	8.28.10	3	④ 3
316	SHINSHU	.743	7	08-21-47	11.21.47	9.11.08	9	③ 3
346	HISHAKAKU	.707	8	08-35-34	12.35.34	8.54.11	7	④ 5
340	SHARKX	.711	9	08-45-30	12.45.30	9.04.16	8	④ 6
361	AOLELE II	.704	10	09-13-21	13.13.21	9.18.31	10	④ 7
367	TILDE	.758	11	09-45-50	13.45.50	10.25.58	14	④ 8
321	KELONIA	.680	12	09-47-13	13.47.13	9.22.30	11	⑤ 1
327	OLYMPUS II	.693	13	10-50-15	14.50.15	10.16.56	12	⑤ 2
382	FLYINGKARPET	.738	14	10-54-34	14.54.34	11.00.11	17	④ 11
164	SAGAMI II	.747	15	10-55-58	14.55.58	11.09.17	18	③ 4
369	USHIO	.711	16	10-55-59	14.55.59	10.37.02	15	④ 9
379	MAMBOW	.721	17	10-56-01	14.56.01	10.46.01	16	④ 10
324	AKISTUKI	.689	18	10-57-06	14.57.06	10.18.06	13	⑤ 3
319	KAMAKURA	.714	19	13-20-30	17.20.30	12.23.57	19	④ 12

棄権艇(スタート前申告) ~ CONTESSA II, KUROSHIO, FLAMINGO II

黒潮南進レース成績表

安岡レース帆走委員長

セー ル №	艇 名	T.C.F.	到着時刻 F. T.	所要時間 E. T.	修正時間 C. T.	順位	
						着順	クラス順
188	CONTESSA II	777	15.42.15	9.42.15	7.32.24	1	2 III. 1
323	KAY SEVEN	775	15.47.28	9.47.28	7.35.17	2	3 " 2
312	HAYATORI	707	16.14.41	10.14.41	7.14.34	3	1 IV. 1
361	AOLELE II	704	18.38.08	12.38.08	8.53.43	4	4 " 2
366	MOSA III	710	18.40.02	12.40.02	8.59.37	5	5 " 3
346	HISHAKAKU	707	19.13.00	13.13.00	9.20.39	6	6 " 4
383	TONGA	750	D.N.F.	-			
367	TILDE	758	D.N.S.	-			
305	RYUMARU	-	D.N.S.	-			
382	FLYING KARPET	738	D.N.S.	-			

3-1

4-1

着 順	セ-ル No.	艇 名	級	T C F	航 跡	
					初 島 西 方	竜王埼南方
					日 時 分	日 時 分
1	188	CONTESSA II	III	* 0.774	28.19.00	29.01.30
①②	2	<u>TONGA</u>	IV	0.739	28.19.25	29.01.30
3	355	LOTUS	III	0.794	28.21.30	29.03.43
4	183	<u>CYGNUS</u>	IV	0.717	28.21.27	29.04.05
5	184	<u>JOVIAL FIVE</u>	"	0.721	28.19.35	29.03.45
6	319	かまくら	"	0.705	28.22.05	29.05.00
7	346	飛車角	"	0.708	28.21.00	29.04.20
8	332	MUSE	"	* 0.705	28.22.03	29.05.31
9	340	SHARK X	"	0.710	28.22.12	29.05.27
10	315	どんがめ VI	"	0.706	28.22.00	29.06.25
11	366	MOSSA III	"	* 0.711	28.22.30	29.05.55
12	379	MAMBOW	"	* 0.721	28.22.30	29.08.00
13	179	SIRENA	"	0.712	28.21.50	29.14.50
DNF	164	さがみ II	III	0.741		
"	135	くろしお	IV	* 0.727	28.22.05	-
"	374	高 麗	"	* 0.713	28.20.50	-
"	353	SEA CROWN	"	0.708	28.22.30	-
"	361	AOLELE II	"	0.707	28.22.40	29.13.35
"	327	OLYMPUS II	V	0.688	28.22.45	-
"	334	JUNE BRIDE	"	* 0.688	28.23.00	-
"	321	KELONIA	"	0.680	28.22.28	-

- [註] 1. T C F は 1966 年度計測ルールに従った。  
 2. \*印は仮 T C F であるが本レースは上記 T C F による順位を  
 3. CONT II は Time Penalty 5% (修正時間につき) を課

ス 成 績 表

1966.5.28-29

図	到着時刻			順位	
	F. T	E. T	C. T	総合	級 別
フィンツシユ	時 時 分 秒	時 分 秒	時 分 秒		
-	29.08.53.57	20.53.57	16.59.05	7	III-①
-	29.09.24.12	21.24.12	15.49.01	①	IV-①
29.10.12.90	29.10.11.43	22.11.43	17.37.22	10	III-②
29.10.23.-	29.10.22.25	22.22.25	16.02.30	②	IV-②
-	29.10.22.49	22.22.49	16.08.10	③	IV-③
-	29.11.08.32	23.08.32	16.18.54	4	④
-	29.11.08.33	23.08.33	16.23.05	5	⑤
-	29.12.01.26	24.01.26	16.56.12	6	6
29.12.03.45	29.12.03.56	24.03.56	17.05.11	8	7
	29.12.45.56	24.45.56	17.29.04	9	8
	29.12.58.44	24.58.44	17.45.35	11	9
	29.16.25.17	28.25.17	20.29.30	12	10
	29.20.29.13	32.29.13	23.07.50	13	11
(28日 13.50	マスト折損自力で小網代入港				
(29日 09.52	リタイヤ 14.10	油壺入港)			
(29日 07.30	リタイヤ 11.00	油壺入港)			
(29日 10.50	リタイヤ 15.30	葉山入港)			
(29日 16.00	リタイヤ 19.30	油壺入港)			
(29日 10.45	リタイヤ 15.15	葉山入港)			
(29日 12.00	リタイヤ 15.30	油壺入港)			
(29日 06.00	リタイヤ 12.30	油壺入港)			

Final とする。

された。

本年度下半期の集会予定日

1. 常任委員会（火曜日に当たります。）

7/12, 8/16, 9/13, 10/4, 11/15, 12/6

2. 湾内ポイントレース

7/17, 8/14, 9/11, 10/2, 11/13, 12/11

「潮気」シリーズ（其の1）

突風の前ぶれ

突風の起こる前触れとして次のようなことが知られています。

- (1) 冬、暖流の流れている東の海上で、南東の風が吹きはじめたら、強い突風の吹くことが多い。
- (2) 積乱雲が西の水平線上に現われたら数時間のうちに突風の吹くことが多い。
- (3) 夜、西空に稲光りが見えたら数時間のうちに突風の吹くことが多い。
- (4) 突風のくる前には俄雨が降つたり止んだりする。
- (5) ベタ凩ぎの日、西よりの水平線が凹凸に見えたら間もなく突風がくる。
- (6) 朝、西空に虹が見えたら間もなく突風がくる。
- (7) 寒気突風は間をおいて何回もやつてくる。だから一度なぎになつても寒いうちは次の突風に備えること。
- (8) 突風は夜半すぎにくることが多い。

（社団法人日本海難防止協会発行「気象の海象」より）